

2025年度 総合型選抜Ⅰ期（文章読解型） 出題の意図・解答例

1 出題の意図

課題文を読み、内容に関する問いに的確に答えられるか、さらに、課題文に則りつつ幅広い視点から自分の考えを明確に論述できるかを問うた。

問一は、学校の英語教育を「実用性を重視して英会話中心の授業にする」ことについて、筆者の指摘を課題文から読み取り、具体例を用いて説明できるかを問い、読解力を試した。

問二は、人々が「思考停止」に陥っている現代社会の現象を具体的に取り上げ、自分の考えを述べられるかを問い、論理性や表現能力を試した。

2 解答例

問一

斉田の研究からも明らかのように、英語教育を読解・文法中心から会話中心に転換した結果、生徒・学生の英語の学力は著しく低下してしまったが、これは当然のことである。かつてのような英文の読解が中心の授業であれば、英語で書かれた小説や評論を読み、それを日本語に訳すことで、言語能力や想像力が鍛えられるだけでなく、深い教養が身につく、視野も広がり、知的刺激を十分に受けることができた。ところが、英語の授業が、海外からの旅行者への道案内や外国人とのあいさつのような、幼い子どもが話している程度の日常会話を交わす訓練となってしまうため、本来の授業の目的である知的能力を高めることにはならなかったのである。

問二

現在、電車を利用してどこかに行くとき、多くの人がスマートフォンで乗り換えを検索できるアプリケーションソフトを使っている。出発と到着の駅を入力すれば、最適な乗り換えルートを教えてくれる。昔は、どの路線がどの駅を通っているとか、何線と何線がどの駅で接続しているとか、いろいろな知識を使って、自分の頭で乗り換えルートを考える必要があった。

乗り物を降りてからは、目的地まで行く間もスマホのアプリが案内してくれる。この便利な道具やシステムによって、地図を読み込む必要もなくなった。自分自身はスマホの画面の固定された地点にいたままで、地図の方が進行に合わせて勝手に移動してくれるからだ。いずれも便利きわまりないが、スマホとアプリに頼りきっていると、頭の中に路線図や地図が一向に定着しない。もし、電池が切れたり、通信の不具合が起きたりしたら、即座に迷ってしまうだろう。自分で考える作業や手続きが省略されてしまうと、考えないで動かされることに疑問を持たなくなってしまうのは問題だと思う。

このように、私たちは、思考停止に陥っているのであり、自分の頭を使って体で経験しながら行動することが難しくなっていると考える。